

れいはいはさいこうのしゅくぶ



わたしを あいしてくださる かみさまに  
さいこうの えいこうを ささげましょう



あらかじめ みた サムエル  
—けいやくを あらかじめ  
こころに とめましょう

いのり

しかいしゃ

しとしんじょう

みんなで

さんび

しんさんびか 8ばん (きゅうさんびか 9) 「せいなる、せいなる」 Trinity (2020 ねんこどもさんび)

せいしよ

I サムエル 3:1~3

I サムエル 3:1~3 少年サムエルはエリの前で主に仕えていた。そのころ、主のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった。その日、エリは自分の所で寝ていた。——彼の目はかすんできて、見えなくなっていた——神のともしびは、まだ消えていず、サムエルは、神の箱の安置されている主の宮で寝ていた。



みことば —あらかじめ みた サムエル—けいやくを あらかじめ こころに とめましょう しかいしゃ

サムエルは 幼いときから、お母さんのハンナから神様の契約を聞かせてもらいました。「私たちを救ってくださるキリストが来られるよ。その契約は契約の箱の中に入っているよ」神殿にひとりでいたサムエルは、とてもさびしかったのですが、お母さんから聞いた来られるキリストの契約を覚えていました。契約を毎日 考えて、あらかじめ感謝することができました。ある日、神様のみことばがサムエルに臨みました。それからのサムエルは、どんな問題があっても、おそれませんでした。神様が願っておられることがなにかをし、その願いを伝えたのです。神様はそのようなサムエルとともにいてくださり、サムエルのことばを一つも地に落とされず、すべて成就する祝福をくださいました。



いのり

いっしょに おおきなこえで  
いのりましょう

かみさま、ありがとうございます！ イエス・キリストの けいやく、 せかいふくいんかの けいやくを にぎって サムエルのように かみさまの みことばを きく レムナントになりますように。いきておられる イエス・キリストの みなによって おいのりします。アーメン



しゅのいのり

いっしょに しゅのいのりを いのって れいはいを おえましょう

フォーラム

きょうの みことばを きいて パパとママと はなしを しましょう



まいにち  
✓ チェックしよう

げつよう

かよう

すいよう

もくよう

きんよう

どよう

みことば あんしょう

あま〜い  
133

133とは、みことばを 1にち 3かい 3かいつつ よめば  
いっしゅうかんに おぼえることが できるという いみです。

18

げつようび

あまくて ふしぎな かみさまの みことばを まいにち よみましょう。  
よく みえる ところに はっておいて いっしゅうかん  
くりかえし よんで みことばを おぼえましょう

**かみの ともしびは、**

**まだ きえていず、**

**サムエルは、**

**かみのはこの あんちされている**

**しゅのみやで ねていた。**

1サムエル3 しょう3せつの みことば



きって はりましょう



そうぞうしゅ ぜんのうしゃ すくいぬし さばきぬし である  
かみさまを しんじていた ハンナを とおして おさない  
サムエルは かみさまを しりました。 したの せいしょかしよを  
しっかりと よんで つぎのページから きりぬいた せいくを  
あいている ところに あう ように はりましょう。

じゅんぴする もの： はさみ のり つぎのページ



まことの  
よげんしゃ

イエスは かれに いわれた。  
「わたしが みちであり、しんりであり、  
いのちなのです。わたしを とおしてで  
なければ、だれひとり ちちの みもとに  
くることはありません。  
ヨハネ14しょう6せつ

つみを おかしている ものは、  
あくまから だた ものです。あくまは  
はじめから つみを おかしているからです。  
かみのこが あらわれたのは、  
あくまの しわざを うちこわすためです。  
Iヨハネ3しょう8せつ



まことの  
おう



まことの  
さいし

ひとのこが きたのも、つかえられる ためでは  
なく、かえって つかえる ためであり、また、  
おおくの ひとの ための、あがないの  
だいかとして、じぶんの いのちを  
あたえる ためなのです。  
マルコ10しょう45せつ

イエスは かれに いわれた。  
「わたしが みちであり、しんりであり、  
いのちなのです。わたしを とおしてで  
なければ、だれひとり ちちの みもとに  
くることはありません。  
ヨハネ14しょう6せつ

つみを おかしている ものは、  
あくまから だた ものです。あくまは  
はじめから つみを おかしているからです。  
かみのこが あらわれたのは、  
あくまの しわざを うちこわすためです。  
Iヨハネ3しょう8せつ

ひとのこが きたのも、つかえられる ためでは  
なく、かえって つかえる ためであり、また、  
おおくの ひとの ための、あがないの  
だいかとして、じぶんの いのちを  
あたえる ためなのです。  
マルコ10しょう45せつ

きょうも パパとママと いっしょに れいはいしましょう。  
きょうの みことばで じゅうような たんごを もういちど  
かんがえてみましょう。  
したの ないようを よんで じゅうような たんごを  
なぞって かきましよう。

しんでんに ひとりでいた サムエル は、

とても さびしかったのですが、

おかあさんから きいた

こられる キリストの けいやく を

おぼえていました。

けいやくを まいにち かんがえて、

あらかじめ かんしゃ することが

できました。あるひ、

かみさまの みことば が

サムエルに のぞみました。



さがして いろをぬろう

どこ？

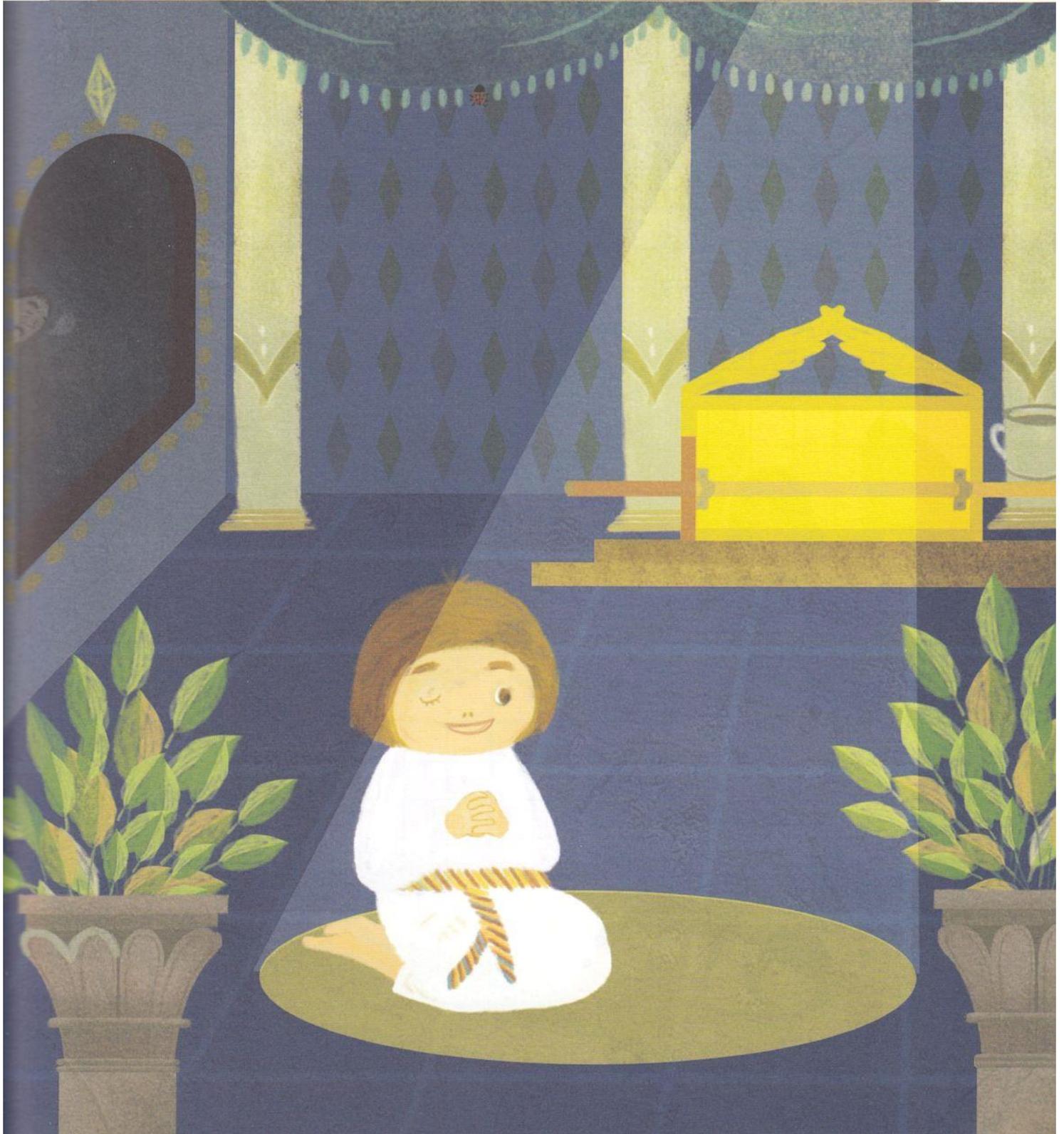
かくれている えを みつけたり きれいに いろを  
ぬったり しましょう

21

もくようび

おさない ときから おやの もとを はなれて しんでんで  
せいかつしていた サムエルは いつも けいやくの そばに いました。  
サムエルのように けいやくを くださる かみさまに かんしゃしながら  
したの えに かくれている えを みつけましょう。

かくれている え | すうじの3、コップ、てんとうむし、ダイヤモンド、アルファベットのT



パパとママと いっしょに おはなしして  
かみさまが よろこばれる かんがえ ことば こうどうを  
えで ひょうげんしましょう。

かみさまは けいやくを もつ サムエルと いつも ともに おられ  
おおくの ひとを いかす とくべつな しゆくふくを あたえられました。  
わたしも サムエルの ように かみさまに えらばれた レムナントです。  
かぞくと いっしょに はなしを して えか じで ひょうげんしましょう。



たのしい ワークをして いっしゅうかんの みことばを  
こころに きざみましょう

23

どようび

わたしは かみさまと ともに けいやくの りよていを あゆむ  
しあわせな レムナントです。 つぎのページからの  
せいしよどうわを パパとママと いっしょに よんで レムナントの  
ヨセフに いって あげたい ことを はなしましょう。  
また わたしに いって くれる ことは なにかを かんがえましょう。

じゅんびするもの | つぎのページからの ヨセフのおはなし

## せいしよどうわを よんで しゅじんこうに こえを かけよう!



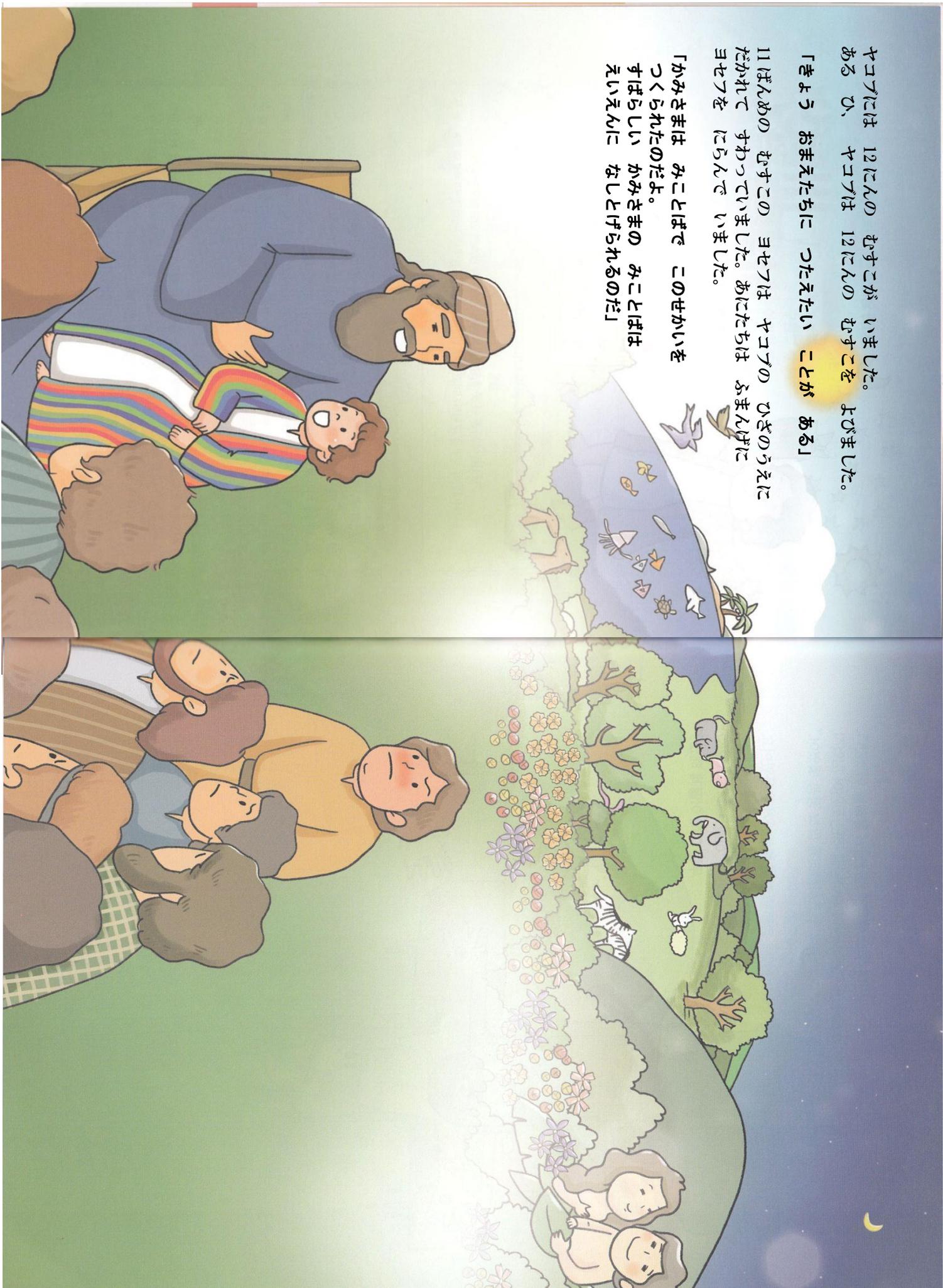
1. せいしよどうわを よみます
2. しゅじんこうに いいたい ことばを かんがえましょう
3. ふさわしい ときに しゅじんこうに こえを かけましょう
4. しゅじんこうは わたしと パパとママに なにを いってくれますか
5. かみさまに かんしゃの いのりを して おわりましょう。

ヤコブには 12にんの むすこが いました。  
ある ひ、 ヤコブは 12にんの むすこを よびました。

「きょう おまえたちに つたえたい ことが ある」

11ばんめの むすこの ヨセフは ヤコブの ひざのうえに  
だかれて すわっていました。あにたちは ふまんげに  
ヨセフを にらんで いました。

「かみさまは みことばで このせかいを  
つくられたのだよ。  
すばらしい かみさまの みことばは  
えいえんに なしとげられるのだ」



「ところが わたしたち にんげんは かみさまの  
みことばに ききました。 わがわがなかつた。  
そのときから すべての ひとは かみさまを  
はなれた つみびとに なってしまった。  
サタンに つかまって しまつたのだよ」

ヨセフは びっくりにして めを  
おおきく みひらきました。

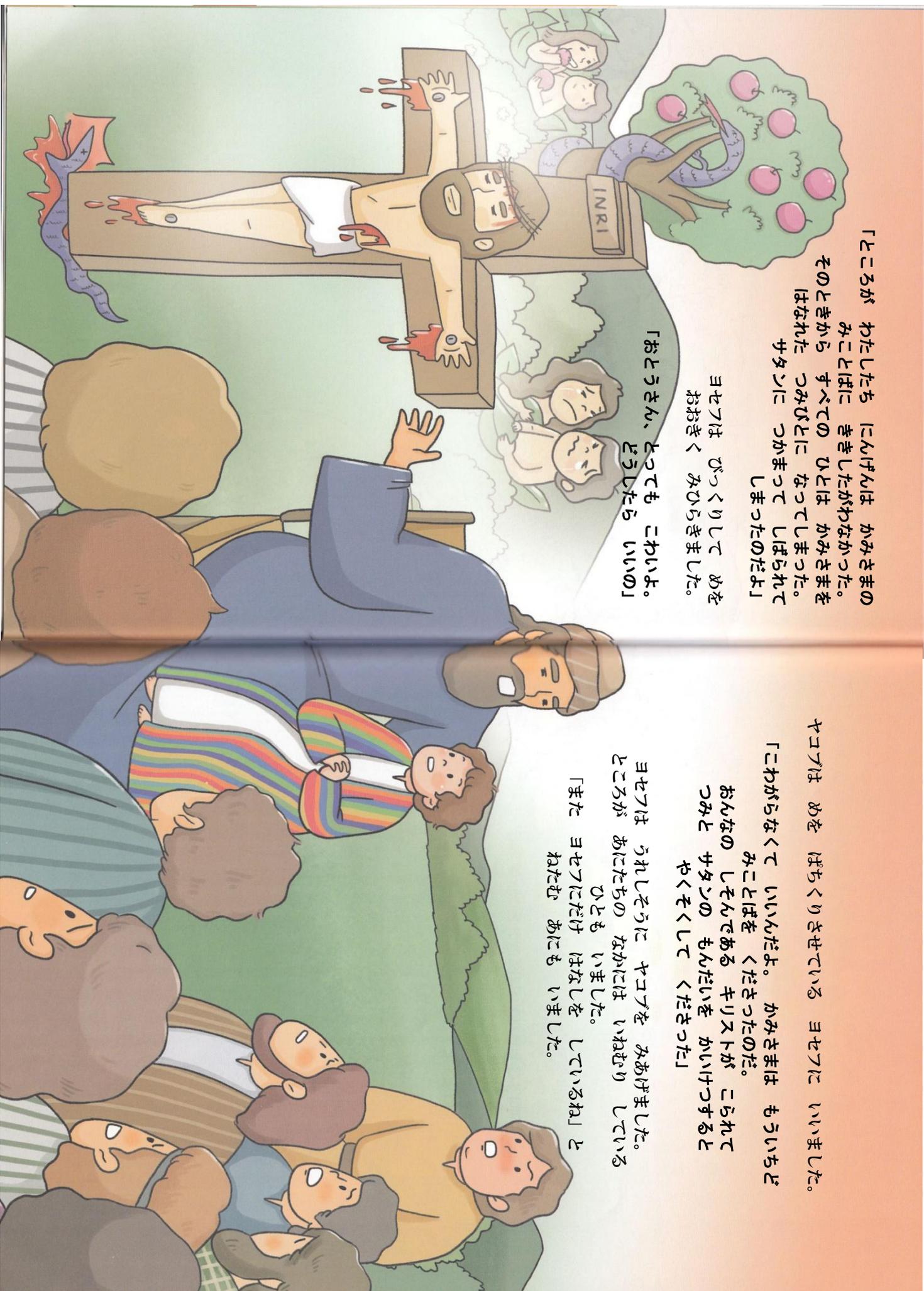
「おとうさん、とつても こわいよ。  
どうしたら いいの」

ヤコブは めを ばちくりさせている ヨセフに いいました。

「こわがらなくて いいんだよ。 かみさまは もういちど  
みことばを くださったのだ。  
おんなの しそんである キリストが ころれて  
つみと サタンの もんだいを かいけつすると  
やくそくして くださった」

ヨセフは うれしそうに ヤコブを みあげました。  
ところが あにたちのは なかには いねむり している

「また ヨセフにだけ はなしを しているね」と  
ひども いました。  
ねたむ あにも いました。



ヤコブは つぎの ひ また むすこたちを あつめました。

「きょうも はなしたいことがある」

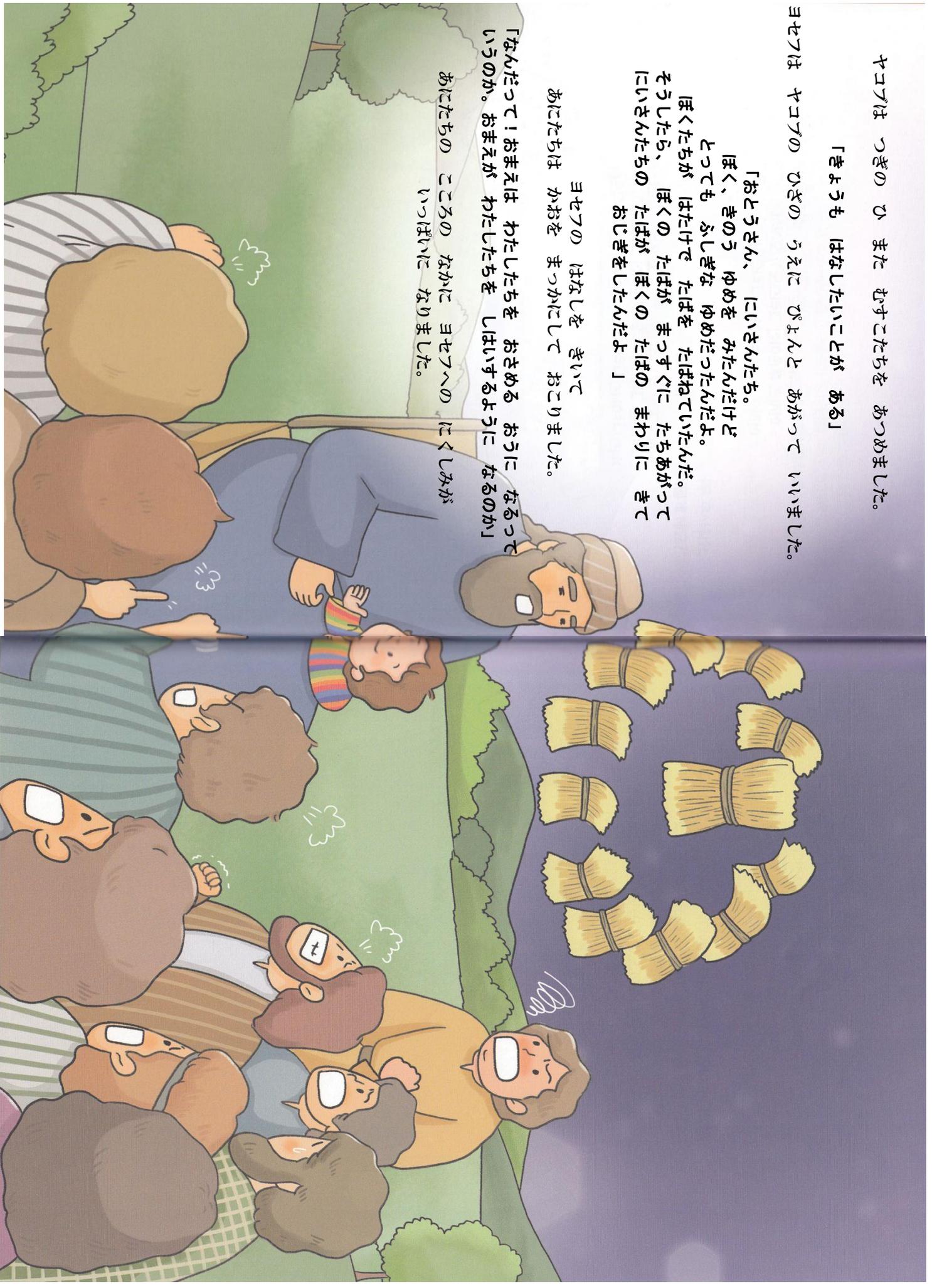
ヨセフは ヤコブの ひざの うえに びよんと あがって いいました。

「おとうさん、 にいさんたち。  
ほく、きのう ゆめを みただけけど  
とつても ふしぎな ゆめだったんだよ。  
ほくたちが はたけで たばを たばねていたんだ。  
そうしたら、 ほくの たばが まっすぐに たちあがって  
にいさんたちの たばが ほくの たばの まわりに きて  
おじぎをしたんだよ」

ヨセフの はなしを きいて  
あにたちは かおを まっかにして おこりました。

「なんだって！おまえは わたしたちを おさめる おうになるって  
いうのか。おまえが わたしたちを しはいするようになるのか」

あにたちの こころの なかに ヨセフへの はくしみが  
いっぱいになりました。



その つぎの ひ ヤコブは むすこたちを よびました。

「きょうも かみさまの みことばを つたえるために よんだのだ！」

ヤコブは ヨセフを じつと みて はなしました。

「かみさまは わたしの おじいさんの アブラハムに やくそく してくださいました。

わたしたちの かけいを とおして すくいぬし キリストが

こられると いわれたのだ。 わたしたちの しそんは

わたしたちは ほしのようにおおく なると いわれた。

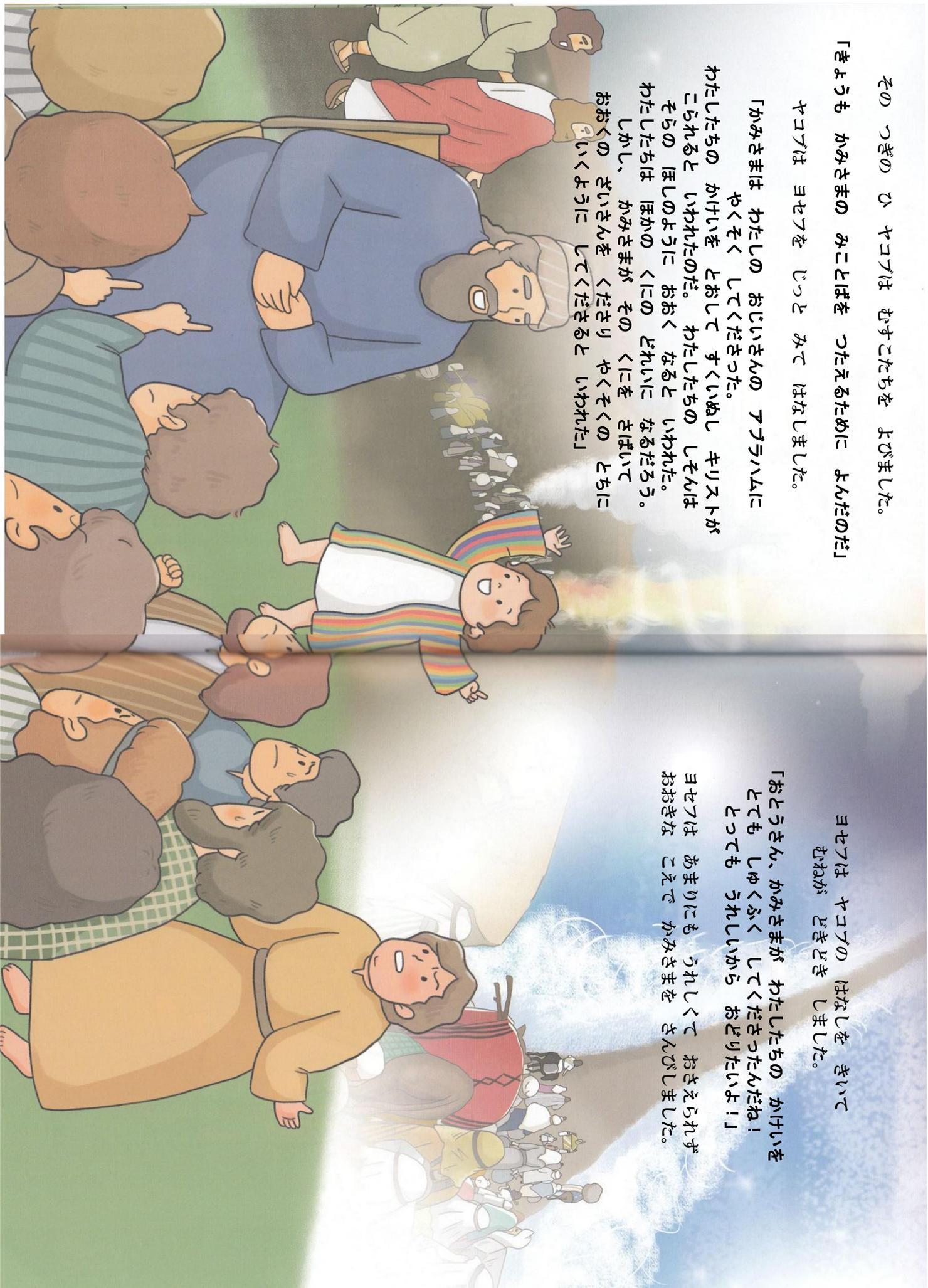
しかし、 かみさまが その くにを さばいて

おおくの さいきんを くださり やくそくの とちに おおく いくように してくださいましたと いわれた！」

ヨセフは ヤコブの はなしを きいて むねが どきどき しました。

「おとうさん、 かみさまが わたしたちの かけいを とっても しゆくふく してくださいましたね！ とっても うれしいから おどりたいよ！」

ヨセフは あまりにも うれしくて おさえられず おおきな こえで かみさまを さんびしました。





つぎの ひ ヤコブが 12にんの むすこたちを また よびました。

「きょうも かみさまの みことばを つたえるために よんだのだ」

あにたちは ねむそうな めを していました。  
しかし ヨセフは めを キラキラ かがやかせていました。

「あのね、おとうさん。 ほく きのう また ゆめを みただ。  
ゆめの なかで たいようと つぎと じゅういちの ほしが  
ほくを ふしおがんで いたんだよ！」

ヤコブは しかって いいました。

「ヨセフ。 いったい なんなのだ！ にいさんたちが  
わたしと おまえの おかあさん、 おまえのところに すずみでて  
おまえを ふしおがむと いうのか！」

ヤコブは きびしく いいましたが  
ヨセフの ことばを ところに とめました。

あにたちは ヨセフを ねたんで きらいました。  
そして ヨセフを ころすべきだという  
わるい ところを もつようになりました。  
あるひ おとうさんの おてつたいを しに きた  
ヨセフを つかまえて  
きていた そでつきの ながふくを めがせて  
あなに なげこみました。

「にいさん！ ほくが わるかたつたよ。 ゆるして！」

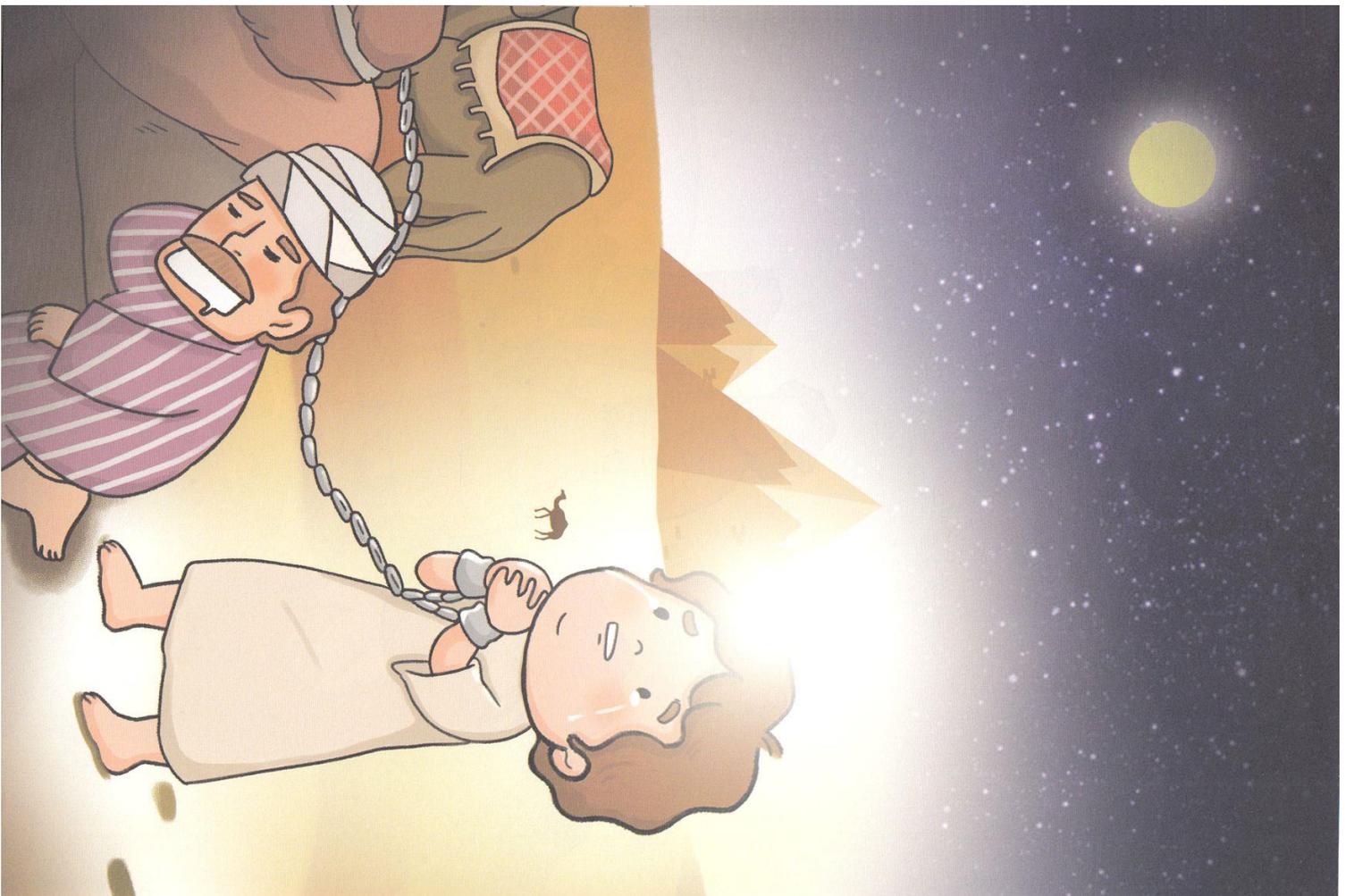
あにたちは きこえない ふりを して  
ちかくに すわって おべんどうを たべていました。



ちようど そのとき エジプトから きた しょうにんが  
そこを とおりすぎました。  
あにたちは ひそひそと はなしました。

「ヨセフを エジプトの どれいに うろら！」





ヨセフは しぼられて エジプトに つれて いかれました。  
まいにち まいにち なみだが ながれました。

とても くらい よるでした。  
ふと かおを あげて そらを みました。  
とても たくさんの ほしが くらい そらに  
びかびかと かがやいて いました。  
ヨセフは そのとき おとうさんから きいた ことばを  
おもいだしました。

「わたしたちの しそんは そらの ほしのように おおくなる」

たいようと つきと ほしが ふしおがむ ゆめも おもいだしました。

「たいようと つきと ほしが ほくき ふしおがむのだ。  
エジプトに いく いま この みちが  
わざわいに おちいつている よのなかを いかしに いく  
みちなんだな！」

どれいになつて エジプトに むかう さむくて くらい みちは  
いつのまにか ほしの ひかりで びかびか ひかるようになりました。